

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(看護学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
看護	2	前期	基礎看護学活動論Ⅱ	2	60	西上 あゆみ、 和田 恵美子	病院看護師として13年間勤務し、当該科目で教授している吸引、酸素療法、導尿、検査介助、点滴、採血など実務経験を有している。授業では、実施時のコツや説明の仕方などに関する具体例を経験を交えて教えている。
看護	2	前期	老年看護学概論	2	30	本多 容子、 米澤 知恵、 河原 史倫	看護師として病院での高齢者看護の実務経験および保健師として地域包括支援センターでの実務経験がある。それらの経験を活かし、老年看護の役割及び高齢者を取り巻く現状や課題について考える授業を実施している。
看護	2	前期	小児看護学概論	2	30	泉 美香	小児科病棟(NICU/GCUを含む)看護師として職務に従事し、様々な健康レベルにある子どもとその家族への援助を実践し、子どもの成長発達支援を重視した看護を展開した。
看護	2	前期	母性看護学概論	2	30	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した経験と「こんにちは赤ちゃん事業」の家庭訪問2年の経験を活かし、現在の社会問題や環境に即した、女性の一生の健康について広い視野を持ち講義を行っている。
看護	2	後期	基礎看護学活動論Ⅰ	2	30	西上 あゆみ、 和田 恵美子	病院看護師として13年間勤務し、当該科目で教授しているフィジカルアセスメントや看護課程の実務経験を有している。授業では、看護問題の立て方や観察の仕方などに関する具体例を経験を交えて教えている。
看護	3	前期	成人看護学演習Ⅰ	1	30	平山 恵美子	科目担当者は、14年間外科系病棟および重症回復室において急性期看護に携わっている。本科目においては、成人期にある対象に対して、基本的技術を基盤にしながらも、臨床で培った実践的な急性期看護技術をシミュレーションを通して学修できるよう授業を組み立てている。
看護	3	前期	成人看護学演習Ⅱ	1	30	齋野 貴史、 岩佐 由美	主・副担当ともに“看護師”として、医療施設等での勤務経験がある。保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づく内容を、自身の医療施設経験を反映した指導により科目運営を行っている。加えて、臨地実習へとつなげるために、実習施設の看護職者と、より実践的であるよう意見交換を行い、改善を図っている。
看護	3	前期	小児看護学活動論	1	30	泉 美香	小児科病棟(NICU・GCUを含む)看護師として、急性疾患および慢性疾患と救命救急の治療と処置を必要とする子どもとその家族を対象とした看護に従事し、様々な状況におかれた子どもとその家族に対して、発達を主体とする子どもの援助を中心としたケアに従事した。この経験を活かし、小児看護に必要な基本的技術(発達段階に応じた看護のあり方や工夫)やコミュニケーションスキルについて教える。
看護	3	前期	母性看護学活動論	1	30	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した。(助産師としての分娩介助、NICUの新生児看護)現在、産婦人科クリニックでの臨床勤務の兼業3年している。それらを生かし、シミュレーションなどを取り入れ、より実践的な周産期の看護実践指導に役立っている。
看護	3	前期	精神看護学活動論	2	60	奥野 修一、 矢野 貴恵	精神科病院に15年勤務(主任看護師)し、その経験の成功例や再考例などを基に精神障害をもつ人の看護や看護過程、身体疾患を合併している人への看護などの授業に活かしている。公益社団法人大阪府看護協会認定の認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程を修了し、病棟管理などの授業に活かしている。厚生労働省認定の看護教員養成講習会を修了し、授業展開や演習などに活かしている。大阪府保健婦助産婦看護婦実習指導者講習会を修了し、セルフケアのアセスメントと援助や看護過程の展開(演習)などに活かしている。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(看護学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
看護	3	前期	在宅看護学活動論	1	30	寺田 准子、 堀 智子	科目構成としてケアマネジメントの理解と在宅看護過程という2つの思考のトレーニングを行っている。本科目の主担当教員は前職介護支援専門員として3年間ケアマネジメント業務に携わっており、その実務経験を活かした授業を展開している。また、在宅看護過程の講義においても介護支援専門員として在宅療養者の支援を行ってきた経験から授業を構成している。なお、主担当教員は厚生労働省認定 看護教員養成講習会修了しており、その中で、在宅看護論を専攻しており、在宅看護に関する教授課程を修めており、そのスキルも本科目に活用している。
看護	3	前期	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2	30	波多野 浩道、 佐藤 文子、 南 朗子	産業保健・国際保健の経験を活かし、演習形式の講義を行っている。 行政保健師の実務経験を活かし、各分野における保健活動の実際について、事例を用いた演習形式で展開している。
看護	3	前期	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	2	30	波多野 浩道、 佐藤 文子、 齋野 貴史、 南 朗子	産業保健・国際保健の経験を活かし、演習形式の講義を行っている。 行政保健師の実務経験を活かし、各分野における保健活動の実際について、事例を用いた演習形式で展開している。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(理学療法学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
理学	1	前期	理学療法概論	1	30	寺田 茂	医療機関で34年間、臨床で理学療法士としてリハビリテーション業務に従事。その間に部門管理者としての組織マネジメントや一部で病院経営の戦略委員としてもかかわってきた。その経験を活かし、「理学療法概論」では理学療法の対象と治療手段について実際の患者を例に挙げてアプローチやリスク管理などの注意点を教授する。また、部門管理や組織としての活動、理学療法士として必要な資質についても経験を踏まえて授業を行う。
理学	1	後期	体表解剖学	2	30	何川 渉、 梶本 浩之	病院、クリニック、訪問リハビリテーションの現場で対象者を評価し治療していく中で、触る事、触診を行ってきた。また、徒手療法の講習会にも多く参加し、触診の大切さを更に実感しながら臨床を行ってきた。
理学	2	前期	運動療法学	2	30	森田 恵美子	臨床での経験を活かし、理学療法の最も大きな柱として位置づけられている運動療法について、臨床の場でよく用いられる関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動等の基礎的知識を習得することを目的に実施する。特に、1年次に学んだ解剖学、生理学、運動学の知識を活用しながら、根拠に基づいた運動療法が施行できる能力を養うことを目指している。
理学	2	後期	臨床推論	1	30	堀 寛史	総合病院にて4年、クリニックにて2年の理学療法士としての常勤と訪問看護ステーションでの14年、整形外科クリニックでの14年の非常勤での臨床経験を有する。その経験を生かして、学生に対して臨床推論を論理学と経験に基づいて説明することができる。
理学	2	後期	義肢装具学	2	30	前田 智香子	平成7年、理学療法士免許取得。その後、さまざまな医療福祉施設において常勤理学療法士・非常勤理学療法士として勤務し、切断のリハビリテーション、整形疾患への装具療法、脳血管障害への装具療法、脊髄損傷への装具療法を実践。講義では学生が臨床において理学療法評価を基に義肢装具療法を展開できるセラピストになるよう本物の義肢・装具に触れさせることを重要視しつつ授業を展開している。
理学	2	後期	日常生活活動学	2	30	平山 朋子	実務経験として、病院勤務の際に脳血管疾患、運動器疾患、神経筋疾患(パーキンソン病、ALS、脊髄損傷などの疾患)に対する日常生活活動の理学療法評価を実施(FIMなど)していた。また、日常生活活動の運動療法、日常生活活動の指導も実施していた。
理学	2	後期	脳血管理学療法学総論	1	30	山科 吉弘	ICUおよび脳卒中センターでの急性期理学療法、ならびにリハビリテーション病院での回復期・維持期理学療法の経験をもとに脳血管・脳神経が損傷された時に生じる主症状およびそのメカニズムについて説明する。また各時期(急性期～維持期)の基本的な脳血管疾患における理学療法の考え方を教える。
理学	3	前期	運動器理学療法学	2	30	熊田 仁	平成2年免許取得。その後大学病院にて18年間勤務。その間、整形外科疾患の術後の管理から運動療法まで数多くの症例を経験してきた。また、クリニック等においても保存治療に対する運動療法に多く携わっていることから、それらの経験を踏まえて解剖学を基本にした考え方を治療に結びつけるよう指導する。
理学	3	前期	脳血管理学療法学	2	30	山科 吉弘	ICUおよび脳卒中センターでの急性期理学療法、ならびにリハビリテーション病院での回復期・維持期理学療法の経験をもとに脳血管疾患における一般的な運動療法の概念について説明する。そして、対象者への理学療法プログラム立案までのプロセスを理解することを目指す。
理学	3	前期	神経筋理学療法学	2	30	玉地 雅浩	担当科目で取り上げる疾患は、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、脊髄損傷、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群である。本学に勤務する前は、大学病院や急性期の総合病院に10年以上勤務しており、これらの疾患を有する患者は全て理学療法を実施した。この経験を活かして、学生に対して、障害像がイメージできるような授業内容を提示できている。また現在も関連病院の藍野病院で、パーキンソン病の患者を毎週担当しているため、実務経験は万全である。
理学	3	前期	小児理学療法学	2	30	阪上 奈巳	障がい児の療育に携わった経験を基に、対象児が抱える問題を見極める視点を身につけるべく、正常発達の知識を理解し、問題解決に向けた理学療法の基礎的な知識・技能の習得を目的に行っている。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(理学療法学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
理学	3	前期	地域理学療法学	2	30	平山 朋子	実務経験として、病院勤務の際に在宅医療、訪問リハビリテーション、住宅改修の支援、通所デイサービスなど、地域理学療法に関する業務を行っていた。
理学	3	後期	理学療法診断論	1	30	堀 寛史	総合病院にて4年、クリニックにて2年の理学療法士としての常勤と訪問看護ステーションでの14年、整形外科クリニックでの14年の非常勤での臨床経験を有する。その経験を生かし、対象者を検査・観察する方法の指導ができる。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(作業療法学科)

学科	学年	担当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
作業	1	前期	作業療法学総論	2	30	長辻 永喜	22年間の大阪府立身体障害者福祉センター・附属病院での臨床経験を基に対象者の治療に関わるだけでなく様々な場面での作業療法の啓発・紹介を行った。
作業	1	前期	基礎作業学	2	30	中西 英一	以前勤務していた精神科病院での治療体験を学生に話すことで、実際の精神科における作業療法を考えてもらう。特に基礎作業学では作業の特性について理解することが授業目標でもあるので、事例に応じて、なぜこの作業を選択したのか、選択した作業を効果的に対象者へ影響するためにどのようなセラピストの働きかけが必要かについて、学生同士で議論し、当時の方法と比べながら学生に理解を促している。
作業	1	後期	作業療法評価学総論	2	30	津田 勇人	作業療法士免許取得後、国立大学医学部附属病院および公立病院で身体障害領域の作業療法を22年間実施してきた経験を生かした、作業療法分野で実施している評価の概要をわかりやすく解説する科目である。
作業	1	後期	作業療法治療学総論	2	30	中西 英一、 酒井 浩	作業療法の様々な治療について学ぶことがこの授業の目的であるので、実際作業療法支援を行なった事例を紹介し、治療を計画するまでの経緯、治療プログラムについて、どのような結果が出たのかなどできるだけ具体的に紹介する。また、実務体験を話す中で、学生ならこの事例をどのように考えるのか。何を目標に治療するのかなどを議論することで、患者さんへの視点、作業療法士の目の付け所などを実感してもらうようにする。
作業	3	前期	学童青年期作業療法学	2	30	丹葉 寛之	知的障害や自閉スペクトラム症などの発達障害についての療育施設での関わりや、特別支援教育において支援学校や小学校、幼稚園などでの支援を行なっている。
作業	3	前期	心理社会作業療法学	2	30	白井 雅子	実務経験として、精神科病院や精神科デイケアで様々な疾患の方にに関わり、地域生活の継続や就労支援のための他職種や他機関との連携をとってきた。この講義では、作業療法治療計画が立案できることを目標に事例を通して授業展開している。その中で、疾患ごとの特性や他職種との連携の重要性を示し、精神障害者が地域生活や就労支援を当たり前に行えるような作業療法援助の方法を促している。
作業	3	前期	特定・内部疾患作業療法学	2	30	長辻 永喜、 宮本 陳敏	22年間の大阪府立身体障害者福祉センター・附属病院での臨床でRA/ギランバレー等様々な難病疾患に対する作業療法を実施した。この経験を活かし、特定疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患、悪性新生物(ターミナル期)の基礎知識とリスク管理、作業療法介入について教える。
作業	3	前期	高齢期作業療法学	2	30	長辻 永喜	22年間の大阪府立身体障害者福祉センター・附属病院での臨床で多くの高齢期疾患に対する作業療法を実施した。この経験を活かし、老年期障害に対する作業療法の役割、必要とされる生活支援を実践するための知識を教える。
作業	3	前期	地域作業療法学	2	30	中西 英一	精神科病院での訪問作業療法や生活訓練施設での施設長を行っていた時の具体的な事例について経験を話している。その時のセラピストの考え方や対応などについて考えてもらっている。訪問作業療法では、具体的には事例を紹介し、与えた情報からどのように対象者を理解し、どのような支援計画を立てるのかを学生共に協議する。実際行なったことと学生が考えた計画との差を議論することで、実際どのようなことに配慮して支援計画を立てるべきかを議論する。また、施設長のことも話し、施設においてどのような管理運営をするべきかについて当時の取り組みを紹介しながら学生と議論している。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(作業療法学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
作業	3	前期	認知神経作業療法特論	2	30	酒井 浩	兼業先では高次脳機能障害の事例相談と治療指導を行っており、このような実例をもとにした経験を匿名資料化し、授業内で紹介している。また、臨床では最新の評価介入方法がリアルタイムに導入されており、常に最新の知識に触れることができるため、授業でも最新最先端に触れさせることができる。

【実務経験のある教員等による授業科目であることを示す一覧】(臨床工学科)

学科	学年	配当	科目	単位	時間数	担当教員	教員担当の実務経験
臨床	1	前期	臨床工学概論	1	30	山崎 康祥	国立循環器病センターにおける10年の臨床工学の実務経験から、実際の実務がどのようなものか含め、臨床工学の領域全体のあらましを講義する。
臨床	2	前期	臨床工学関連法規	1	30	菊池 瞳	臨床現場で5年以上の実務経験を有し、その経験を活かして臨床現場における臨床工学技士に関する関連法規について指導する。
臨床	2	前期	臨床医学内科総論	1	30	田浦 晶子	大学病院および一般病院で20年間以上、医師として臨床業務に携わり、保険医療委員としての経験も有する。教科書のみでは学ぶことが出来ないような、実際の臨床現場での様々な問題点(医療安全、カルテ記載、インフォームドコンセントなど)について、わかりやすく教示している。
臨床	2	後期	医用機器安全管理学Ⅰ	2	30	林 拓世、 菊池 瞳	臨床現場で医療機器の保守点検業務を5年以上経験した。その経験を活かして臨床現場における医療機器の保守点検業務について指導する。
臨床	2	後期	臨床医学外科総論	1	30	田浦 晶子	大学病院および一般病院にて20年間以上、外科系医師として勤務し、リスクマネージャーとしての経験も有する。教科書のみでは学ぶことが出来ないような、実際の外科臨床現場での様々な問題点(手術室における医療安全、機械トラブルなど)について、わかりやすく教示している。
臨床	2	後期	腎泌尿器病態学	1	30	水谷 陽一	泌尿器科医師として、約35年の臨床経験を有している。ほとんどの学生は大学卒業後、病院で臨床工学技士として勤務している。そのため、その臨床経験から、教科書の表面的な記述の説明のみならず、臨床現場ではどのようなことが重要であり、どのようなことが知識として必要とされているのかを教授している。
臨床	3	前期	生体計測装置学Ⅱ	2	30	菊池 瞳	臨床現場で生体計測機器を中心とした5年以上の実務経験を有し、その経験を活かして臨床現場における医療計測機器について指導する。
臨床	3	前期	人工心肺制御学Ⅰ	2	30	山崎 康祥	国立循環器病センターにおける10年の臨床工学の実務経験から、臨床経験に基づき人工心肺の基本的な理論の展開と制御管理について講義する。
臨床	3	前期	血液浄化療法学Ⅰ	2	30	畑中 由佳	血液浄化療法を中心とした5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして血液浄化療法の原理から基礎までを指導する。
臨床	3	後期	人工心肺制御学Ⅱ	2	30	山崎 康祥	国立循環器病センターにおける10年の人工心肺操作の実務経験から、臨床経験に基づき、人工心肺の心血管手術領域、先天性心疾患領域の各論での制御管理について講義する。
臨床	3	後期	血液浄化療法学Ⅱ	2	30	畑中 由佳	血液浄化療法を中心とした5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして血液浄化療法の基礎から応用までを指導する。
臨床	3	後期	人工心肺制御学実習	1	30	山崎 康祥、 畑中 由佳	国立循環器病センターにおける10年の臨床工学の実務経験から、臨床経験に基づいた操作法の指導およびピットフォールについて実務指導をおこなう。
臨床	1	後期	医療倫理学	2	30	篠田 恵一	大学付属病院・民間病院での医療におけるインフォームドコンセント、守秘義務、終末期医療、難病患者の医療などにおける医療倫理の実践、遺伝子診断における遺伝カウンセリングの経験、脳死判定委員の経験、病院の倫理委員会の設置と運営に携わってきた。この経験を活かし、倫理的問題について具体例を提示しながら、考察し、対処していくための知識を教える。